総選挙の勝利を
安保闘争の成否かけて

暴力政治か民主主義か、安保闘争の総決算をかけて国の将来を決する総選挙闘争がはじまった。衆議院は二十四日に解散され、三十日公示、十一月二十日（日）全国いっせいに投票が行なわれるが、こんどの総選挙は歴史的な安保闘争によって国民が勝ちとったものである。したがって総選挙闘争の焦点は言うまでもなく新安保体制との対決にある。

本来なら解散は安保条約の批准前に行ない、信を国民に問うべきなのに、政府・自民党は国民の声に耳を傾けず日米新安保条約を強引に可決、批准。岸信介から政権をタライ回しした池田内閣は、いわゆる低姿勢で時をかせぎ、解散を引きのばして安保闘争の高まりの〝沈滞〟を待った。この間「所得倍増」「減税」など、きこえのよいいつわりの〝新政策〟を発表して争点を経済問題にすりかえ、極力安保論議をさけてきた。しかし十月十二日、はからずも三党首立会演説会の席上、野党第一党である社会党浅沼委員長が右翼テロに暗殺されるという事件が起こり、国民の怒りは暴力を育て民主主義にちょう戦する池田自民党政治と新安保体制に向けられることになった。

こうして迎えられた総選挙闘争の争点は整理すればつぎの通りである。

(1)新安保条約の不承認＝自民党は安保論議そのものをさけようとしているが、彼らがこんどの選挙で新安保体制の地固めをねらっていることは明らかであるしすでに公表されているものだけでも教育基本法の改悪による〝愛国教育〟の復活、治安対策の強化、自衛隊の増強、貿易の自由化に伴う合理化の推進などがある。

(2)中立政策の追求＝池田首相は臨時国会の施政方針演説で「中立主義は幻想に過ぎない」と否定し、対米従属強化の方向を明らかにした。しかし九十九カ国のうちアジア、アフリカグループに属する中立国は約四十カ国に達しており、米民主党のマンスフィールド議員でさえ「日本国民は中立を指向している」と指摘している。中立主義は世界の大勢であり、日本の安全は中立政府によってのみ保障される。

(3)暴力政治の追放＝自民党は「右翼も悪いが左翼の〝集団暴力〟も許せない」とし、警察力増強による〝治安対策〟の強化を公然と言い放っている。しかし労働者のストライキやデモ、請願は憲法によって保障された国民の権利であり、民主運動を敵視し、権力で圧しつぶそうとする政治体制こそ暴力を生む根源である。

(4)経済〝新政策〟のバクロ＝自民党三大公約のうち「減税」「社会保障」は〝上げ底〟におわり独占資本擁護の「公共投資」だけが前面に出ている。農業基本法は農民の六割を切り捨て、自由化と合理化の進行にともなう失業問題は全く未解決のままである。「所得倍増」のかけ声をよそに〝物価倍増〟していることは、池田新政策の実態を雄弁に物語っていると言えよう。

こんどの総選挙は、こうした池田自民党政治のゴマ化しをバクロし安保体制を打破して豊かな生活と平和な中立建設への絶好の機会であるといえよう。

全国の仲間のみなさん！

本日私たちは、総評、炭労をはじめ全国から結集した同志とともにストやぶりの掘った石炭を搬出させない固いピケを組み、命がけで万余の武装警官と対峙したホッパー前で「スト解除、就労総決起大会」をひらきました。

きびしい冷たさに霜柱がたっていた一月二十五日、会社側のロック・アウトに対決する無期限ストに突入して以来、南国の九州三池にふたたび冬を迎えようとする晩秋の本日まで、実に二百八十二日にも及んだはげしいたたかいを経た三池闘争は、中労委の再あっせんにもとずく条件交渉の妥結によって、ここに終結を迎え、ストを解除して、いよいよ生産再開にはいることになりました。

いうまでもなく三池闘争は不当なクビ切りをハネ返えし労働者のみ一方的なしわ寄せとなる合理化を許さず職場の民主主義を守り人間の尊厳を守り高めるぎりぎりのたたかいでした。また私たちのたたかいは野ばんな資本家たちが崩れかかった支配体制の支えを求めて、彼らだけの繁栄と延命をはかり、血にぬれた破壊への道を進む安保体制づくりのために組合ぶつつぶしと一層の収奪をねらう、荒々しい攻撃との対決でもありました。

私たちは久保さんを失い、多くの仲間が傷つけられるという骨肉の犠牲をうけながらも、全国のきようだいと結んだ団結で暴力に屈することなく、卑劣な裏切りにも動ぜず、マスコミの集中、官憲のはげしい弾圧、裁判所・中労委など権力を総動員した資本の攻撃に抵抗してたたかいぬいてきました。しかし、私たちは総評、炭労をはじめとする全国の働らく仲間、社会党、共産党や、民主団体「三池を守る会」を中心とする全国各地の仲間や、諸外国のきようだいたちからの暖い力強い支援・共闘に支えられた三池闘争の中でできたえぎすぎあげた不屈の〝労働者魂〟とたくましい〝労働者階級の連帯〟をさらにつよめ、これからのきびしい道をねばり強く前進する決意に燃えています。

全国の仲間のみなさん！

一年半をこえる炭労の六〇〇円カンパ。かつてない総評のカンパ。私たちよりもっと苦しい生活の中からよせられた尊いカンパ。全国の町、村から、海をこえて、遠い外国の同志からとどけられた、たくさんのカンパや団結慰問袋、はげましの手紙や寄せ書は私たちの一万円生活を支え、たたかいの大きな力づけとなり、限りないはげましとなったばかりでなく私たちの心を熱し、強くしました。このたたかいの中できずきあげた労働者階級の連帯、団結の力は不滅ですし、政府、資本家に労働者の頑強な抵抗の力を示したことは大きな成果です。

さらに私たちには、就労後においても安保体制下のきびしい攻撃が加えられてくるでしょう。しかし私たちは苦難の連続だった三池闘争を正しくたたかった労働者の誇りをもってあくまで正しさをつらぬき、不屈にたたかい、一、二〇〇名の同志を守り、総評、炭労をはじめとする全国の仲間の友情と支援・共闘にこたえる決意です。

安保闘争、三池闘争を通じて平和と労働者の繁栄をたたかいとる力は大きく拡大されたし、平和と独立をねがう全世界の働らく者の連帯と統一も強まり、もはや世界には資本家の絶対支配を許さぬ新しい力が高まっています。

私たちは、だからこそますますはげしくなるだろう敵の攻撃に屈せず、未来はたたかう私たちに輝くことを確信し、堂々と新たな前進をつづけることを誓います。

その出発である「スト解除・就労総決起大会」にあたって、全国の仲間の限りない支援・共闘にたいする感謝の意を表し、固い団結の握手をおくります。

一九六〇年一一月一日

三池炭鉱労働組合
三池炭鉱　主婦会

胸を張って前進を

緑ガ丘若葉町　渡辺務

十一月二日、私たちは誇らしい明るい笑顔で各鉱所の門を潜ったその顔には二八三日前の私自身重田を感じた表情のぎこちなさは、後退という一応の結果をみた今、全くなかった。対象的であったのは、過半数突破を鼓舞し、闘争の勝利感にひたっている第二組合員の、それを事実として身につけていない様子の、見返しすることすら知らない虚ろな眼差しであった屠殺場えひかれる羊を連想したであろう彼等の眼に、あの日の光景は何と映ったか、全くの期待外れであり、一片の良心でも残している者の眼には、少なくとも人間的に生きようと欲する者の、何物にもかえがたい尊い姿の横溢であったはずであろう。

できる事ではなかったにしろ、あの当時、事実やりかねない勢の栗木発言にもおじけず、私欲をすて首をかけて闘ってきた誇りを誇りとも知らない無垢な労働者根性は今こそ胸を張って、自からを誤え、さらに前え進める万全の構えを固める時である。

さまざまな誘いにより、本能のおもむくまま離脱していった一つの集団と、否定しがたいその本能をすら知らず、あるいは理性的に押し殺した人間的感覚を比較する職制の眼は何を語り、何を教えているか、私は幾多の例を知り、あげることができる。

「第二組合つて、そんなものですよ」と第二組合員との個人的な会話のなかでいったという主席とその職種に、本人はもとより他の係員からも第二組合結成以来絶えて勧誘の手紙、その他の動きがないという事実。これは別個のものを結び合わしたものではあるが、決して偶然ではないと信じる。近い将来、そういう事例の集りが、第三次合理化に直面したとき、闘えない組合の上にどのような形となつて現われるかは余りにも明白であろう。不具者ゆえに、病弱者なるが故に闘わねばならぬ鉄則を、曲げて去ったかつての友の哀れな末路が、既に表面化していることに意を注ごう。

闘争は二十八年以前の姿にかえるという結論を経て一応の終止符を打った。千二百の仲間はふたたび職場に帰ることはできなかった「闘いは負けたのではない」という意味はよく判るが、事実職場を去る者の感情で、それをそうだとはつきり割切れるものが、肯定しうる者が果して何人いるだろう。私は絶えずそうした声を耳にする就労を印する日の、押えた感情をできるものなら絵にでもして見たかった。その絵をちぎって全組合員に分け与えたかった。何といってよいか、私は拒否者に対する言葉を知らない。今さら憤慨してみても始まらないが、当事者でなければ痛切に実感として味えない連帯感の未熟さがこの結果の最大の因であることに異議はなかろう。

だが、当時者から連帯責任者え立場をかえていた場合、私たちにそれだけのものがいえたかを私は不安に思う。また私たちには組織の分裂という悪条件がついていたことも忘れてはいけなかったことである。長期間、物心面の支援をの力関係の現実の反映として、耐えがたい結果に直面せざるを得ませんでした。

これまで私たちの中核としてたたかってきた一、二〇〇名の導い同志を職場から失い、いままでの職場闘争の成果であるいくつかの労働諸条件を失いもしました。

しかし、私たちは総評、炭労をはじめとする全国の働らく仲間、社会党、共産党や、民主団体「三池を守る会」を中心とする全国各地の仲間や、諸外国のきようだいたちからの暖い力強い支援・共闘に支えられた三池闘争の中でできたえぎすぎあげた不屈の〝労働者魂〟とたくましい〝労働者階級の連帯〟をさらにつよめ、これからのきびしい道をねばり強く前進する決意に燃えています。

全国の仲間のみなさん！

一年半をこえる炭労の六〇〇円カンパ。かつてない総評のカンパ。私たちよりもっと苦しい生活の中からよせられた尊いカンパ。全国の町、村から、海をこえて、遠い外国の同志からとどけられた、たくさんのカンパや団結慰問袋、はげましの手紙や寄せ書は私たちの一万円生活を支え、たたかいの大きな力づけとなり、限りないはげましとなったばかりでなく私たちの心を熱し、強くしました。このたたかいの中できずきあげた労働者階級の連帯、団結の力は不滅ですし、政府、資本家に労働者の頑強な抵抗の力を示したことは大きな成果です。

さらに私たちには、就労後においても安保体制下のきびしい攻撃が加えられてくるでしょう。しかし私たちは苦難の連続だった三池闘争を正しくたたかった労働者の誇りをもってあくまで正しさをつらぬき、不屈にたたかい、一、二〇〇名の同志を守り、総評、炭労をはじめとする全国の仲間の友情と支援・共闘にこたえる決意です。

安保闘争、三池闘争を通じて平和と労働者の繁栄をたたかいとる力は大きく拡大されたし、平和と独立をねがう全世界の働らく者の連帯と統一も強まり、もはや世界には資本家の絶対支配を許さぬ新しい力が高まっています。

私たちは、だからこそますますはげしくなるだろう敵の攻撃に屈せず、未来はたたかう私たちに輝くことを確信し、堂々と新たな前進をつづけることを誓います。

その出発である「スト解除・就労総決起大会」にあたって、全国の仲間の限りない支援・共闘にたいする感謝の意を表し、固い団結の握手をおくります。

一九六〇年一一月一日

三池炭鉱労働組合
三池炭鉱　主婦会

全国の仲間にたいする感謝決議

本日「スト解除、就労総決起大会」に集った私たちには、一、二〇〇名にたいする不当なクビ切りを撤回し、敵の反動攻撃のすべてを粉砕し得たという誇りやよろこびはありません。

しかし、私たちは総評、炭労をはじめとする全国の働らく仲間、社会党、共産党や、民主団体「三池を守る会」を中心とする全国各地の仲間や、諸外国のきようだいたちからの暖い力強い支援・共闘に支えられた三池闘争の中でできたえぎすぎあげた不屈の〝労働者魂〟とたくましい〝労働者階級の連帯〟をさらにつよめ、これからのきびしい道をねばり強く前進する決意に燃えています。

全国の仲間のみなさん！

一年半をこえる炭労の六〇〇円カンパ。かつてない総評のカンパ。私たちよりもっと苦しい生活の中からよせられた尊いカンパ。全国の町、村から、海をこえて、遠い外国の同志からとどけられた、たくさんのカンパや団結慰問袋、はげましの手紙や寄せ書は私たちの一万円生活を支え、たたかいの大きな力づけとなり、限りないはげましとなったばかりでなく私たちの心を熱し、強くしました。このたたかいの中できずきあげた労働者階級の連帯、団結の力は不滅ですし、政府、資本家に労働者の頑強な抵抗の力を示したことは大きな成果です。

さらに私たちには、就労後においても安保体制下のきびしい攻撃が加えられてくるでしょう。しかし私たちは苦難の連続だった三池闘争を正しくたたかった労働者の誇りをもってあくまで正しさをつらぬき、不屈にたたかい、一、二〇〇名の同志を守り、総評、炭労をはじめとする全国の仲間の友情と支援・共闘にこたえる決意です。

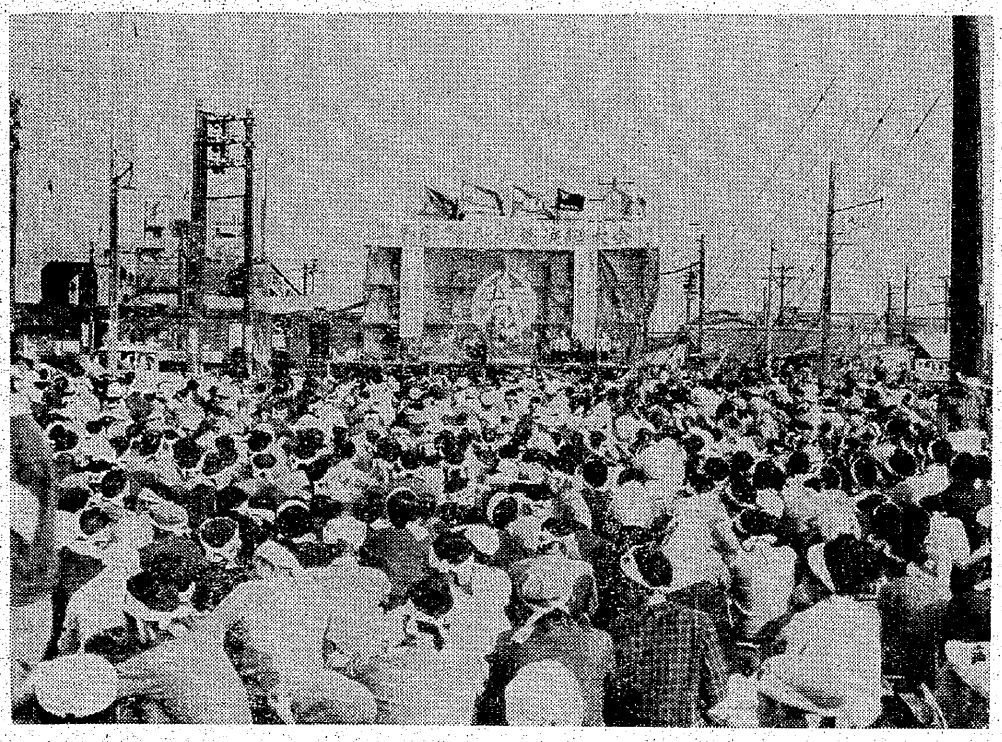
安保闘争、三池闘争を通じて平和と労働者の繁栄をたたかいとる力は大きく拡大されたし、平和と独立をねがう全世界の働らく者の連帯と統一も強まり、もはや世界には資本家の絶対支配を許さぬ新しい力が高まっています。

私たちは、だからこそますますはげしくなるだろう敵の攻撃に屈せず、未来はたたかう私たちに輝くことを確信し、堂々と新たな前進をつづけることを誓います。

その出発である「スト解除・就労総決起大会」にあたって、全国の仲間の限りない支援・共闘にたいする感謝の意を表し、固い団結の握手をおくります。

一九六〇年一一月一日

三池炭鉱労働組合
三池炭鉱　主婦会



ホッパー広場で開いたスト解除・就労総決起大会

【せんきよ用語】

民主、中立政府

こんどの総選挙にあたって社会党は「護憲、民主、中立政府」を、共産党は「安保反対の民主連合政府」を目標にかかげている。表現はちがうが、安保闘争にしめされた国民の力を基礎に反安保、憲法擁護の努力を結集し、独立、中立政策ーすべての軍事同盟からの離脱ーを推進する政府という基本構想ではほぼ一致している。民主勢力の政党や労組その他の団体が小異をすてて大同団結すればこんな政府も決して遠い先の夢ではない。

二当一落

二千万円なら当選するが、一千万円では落ちるということ。法定選挙費用は最低の選挙区で五十四、五万円。最高で百六、七十万円。平均七、八十万円。〝金権政治一掃〟のかけ声や法定費用などクソクラエだ。自民党の選挙資金は財界から注入されるが、こんどの選挙では総計二十億円にもなるという。この金力選挙に民主政党は民主、平和日本をめざす政策と労働者の血の出るようなカンパで闘っている。選挙は金の魔力をうちくだく闘いでもあるわけである。

▽　△